

## 10月の木材価格・需給動向

### 1. 国産材(北関東)

栃木県では原木生産、各共販所への入荷は順調だが、ヒノキ材が少な目である。9月は虫害材がまだ入荷しているが、10月からは新材に変わる。業者によっては材の引取が鈍く、土場を圧迫している。9月の市も完売である。スギ、ヒノキ小径木はともに平均で300~500円値を上げている。スギ柱材は弱保合、スギ中目材は強気配。ヒノキ材は量が少ないこともあり、10月に入って全般に値上がっており、強含みで推移。

群馬では原木入荷が少なく、特にスギ、ヒノキとも土台、母屋、桁用の4m、14~20cmの集荷が困難である。製材工場は公共工事等の受注残がありフル操業。構造材の注文が依然多いが、必要な原木が少なく納期に間に合わない状況。地場工務店への荷動きが停滞し始めた。製品価格は高値安定だが、一部で価格調整も散見され始めた。4mの90・105角は品薄で価格は依然強いが、間柱等は保合からやや緩和し始めた。

### 2. 米材

産地では完全に秋の気候に移行し、伐採規制は無くなったが、1ヵ月以上続いた伐採規制で山元中間土場の原木在庫が払底しており、出材回復までには暫く時間がかかる見込み。米国の港頭在庫は低水準ながら輸出需要に見合う供給は行われているが、カナダではMosaic社の約1ヵ月に及ぶ伐採規制で港頭在庫は払底状態にある。米マツ IS 級並の10月対日輸出価格(推定)は前月比横ばいの\$1,090になった模様。一方、北米製材品市況はようやく反転してきた模様。先行き多少持ち直すと見られるが、日本向け輸出価格との値差は激しい。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(10/1)は\$494/Mで8月末に比べ27.0%の上昇となっている。

8月原木入荷は204千 $m^3$ で200千 $m^3$ 台に回復、1~8月累計で1,595千 $m^3$ (前年同期比27.0%増)、カナダからの入荷は前年同期比275%増。出荷は168千 $m^3$ で入超、1~8月累計は1,562千 $m^3$ (同24.7%増)。在庫は増加し176千 $m^3$ 、在庫率は0.85ヵ月と1ヵ月を切った状態が続く。東京木材埠頭の9月製品入荷は24千 $m^3$ (前月比9.2%減)、出荷は21千 $m^3$ (同28.2%増)、在庫は30千 $m^3$ (同44.2%増)。バルク船での製品入荷が好調で在庫も徐々に増えている。海上運賃は9月に入り上昇のスピードは緩まったが、依然ギリ高状態。国内製

材工場は活況ながら GR 材の荷動きは落ちている。国内大手が 10 月より再値上げを発表し、今年最後の値上げになる模様。

### 3. 南洋材

サラワク州では天候が悪く、原木生産に影響を与えている。FOB 価格に大きな変化はない。PNG では雨期と乾期がはっきりしない天候が続いた。FOB 価格はベトナム、韓国、日本向けは上昇中であるが、中国向けは横ばい。ソロモンは運賃が 100 ドル (PNG→中国は 80~90 ドル) を超えたため、FOB 価格は調整としてやや弱含み。マレーシア、インドネシアからのコンテナ不足は依然解消されていない。主製品のフリー板は 6~7 月頃まで需給が緩んでいたが、ここに来てインドネシア、中国からも供給が激減しており、価格は上昇中。10 月予想の原木入荷は 0 千<sup>3</sup>、出荷は 1 千<sup>3</sup>、在庫 4 千<sup>3</sup>。製材品入荷は 31 千<sup>3</sup>。

### 4. 北洋材

産地の主力工場はアカマツ良材原木の不足で冬伐り材の入荷を待つ状況。日本向けオファー、日本側からの引合も少なく落ち着いた状況。産地シッパーは中国市場の不振や日本市場の沈静化で不安を感じている模様。アカマツ原板は冬伐り原木入荷を踏まえた次回交渉が重要なポイントになる。日本の製材工場は DIY、一般向けとも販売に一服感が出ているため価格調整を要望している。現地挽きアカマツ野縁製品の先高感は無くなり、現行の \$900/㎡ 水準で暫く推移する模様。川上側の流通玉が増えており、不足感は払拭されたが、上級グレードはまだ品薄感がある。アカマツ栈木はトドマツに押されて非常に荷動きが悪い。8 月の製品入荷 (東京+川崎) は 17.6 千<sup>3</sup>、出荷 11.9 千<sup>3</sup>、在庫は入荷増と出荷減が重なり、25.6 千<sup>3</sup>と前月に比べ大きく増加した。来年春まで低水準の入荷が続くと、上級グレードは再度不足する可能性も予想される。

### 5. 合板

合板用原木の国産材は不足がさらに深刻化しており、価格は全樹種で高値が続いている。ロシア材は成約済み材の入荷が大幅に遅れており、価格は直近の成約がなく不透明である。カナダでは伐採が再開されているが、9 月末時点で日本向けの出材は無く、輸出再開は今後の原木生産次第となる模様。

8 月の国内合板生産量は 25.0 万<sup>3</sup>、うち針葉樹合板は 24.3 万<sup>3</sup>、出荷量は 24.5 万<sup>3</sup>で在庫量は 9.2 万<sup>3</sup>、うち構造用合板の在庫は 7.3 万<sup>3</sup>とかなりの低水準。原木不足等の要因で各メーカーの針葉樹合板の生産は低水準でタイ

ト感が強く、納期にかなりの時間を要している。価格も値上りしており強気姿勢のまま。輸入合板は殆どの品目で強いタイト感が出ている。価格も常に上がっており、落ち着く気配はない。8月の合板輸入量は22.1万 $\text{m}^3$ で中国産は大幅な増加、ベトナム、インドネシア産は微増、マレーシア産は大幅な減少。インドネシアでは依然原木不足が深刻で日本からの引き合いも強く合板価格は前月に引き続き上昇。マレーシアでの合板生産量はさらに限定的になる模様で、さらに10%程度の価格上昇を予想する合板工場が多い。

## 6. 構造用集成材

10月より第3・四半期契約分のラミナが入港し始め、工場着価格は90,000円/ $\text{m}^3$ 。製品のプレカット工場着価格は150,000円/ $\text{m}^3$ が一つの目安になる。オファーは必要量の7~8割で各メーカーのラミナ在庫は年末まで厳しい状況が続く。第4・四半期契約分は€560~€600/ $\text{m}^3$ で、過去最高値の第3・四半期に比べ下がったが、依然高値である。輸入集成材も第3・四半期契約の€850~€1,150/ $\text{m}^3$ の材が9月より入港しており、国内流通価格は130,000円/ $\text{m}^3$ 以上になってくる。特に管柱のオファーが少なく、品不足が危惧される。完成品、ラミナとも第4・四半期交渉でWWの契約量は確保できたが、RWの契約量は芳しくなく、RWの不足感は拭えない。

## 7. 木材チップ

チップ原木は製紙・バイオマス用とも引合は強いが、発生、入荷ともに低調である。解体材は一部大手でボイラーの定期修理で入荷を抑制中、発生量は例年並み。製紙用チップは外材針葉樹チップの玉不足で各社とも国産材を増集荷しているが、背板の発生が悪く、丸太チップも増集荷は厳しい。燃料用は大型定期修理が終了し、使用量は徐々に上向いている。国内チップ工場の在庫量は総じて少ない。

## 8. 市売問屋

材木店の仕事が細かいため、材の不足感はない。国産材の構造材はこれ以上の値上がりはないとの雰囲気は漂い始めた。高い外材に材木店がついてくる感じが少なくなってきた。羽柄材も不足感が少なくなっている。大手材木店も大量仕入れの在庫でしばらく間に合うため、先行き様子見となっている。

## 9. 小売

全体に価格は高値張り付き状態だが、極端な品薄材はなく解消に向かっている感がある。深刻なのは合板類で数量確保に苦労している。スギ柱角やヒノキ土台角は一時期ほどではないものの高値が続いている。米材製品は一服感があり欠品材はない。欧州材製品の入荷量は少なく混乱が続いており、特にWW集成柱の逼迫感は今後も続く模様。ロシア材の野縁は依然流通量が少な

く価格も続伸。羽柄材は夏場から価格は高止まりしており、材木店はもう一段高い製品入荷を見越して、リフォーム用の根太、間柱等の手当てを進めた。

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	↘	→	↘
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	→	*	*
	製材品	→	→	→
南洋材	丸太	↘	↘	→
	製材品	→		

注)北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↘	→	→	↘

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	→
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	↗
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	↗
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	↗
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	↗
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	↗
(国内挽き)		米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	↗	
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
		メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→	
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
東京・問屋店頭 渡し価格		同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	↗	
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	→
			アカマツ (KD) 16×40上級	→
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	↗
			ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	↗
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	↗
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	↗
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↗
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗